

OBP クリニックだより 第54号

(2021年5月)

【緑内障】

今回は緑内障についてのご紹介です。

緑内障は、本来は眼圧が高くなり、目と脳をつなぐ視神経が障害されて、徐々に視野（見える範囲）が狭くなる病気です。眼圧が正常範囲内でも起こる緑内障（正常眼圧緑内障）もあり、これは日本人に一番多いタイプです。

また、緑内障は、現在日本では失明の原因の第1位になっています。

40歳以上の約20人に1人は緑内障と考えられていますので、決して珍しい病気ではありません。

【緑内障の症状】

多くの緑内障は、少しずつ、ゆっくりと見える範囲が狭くなっていきます。

◎見え方の変化のイメージ◎



初期症状

中期症状

末期症状

【緑内障の検査】

緑内障は、眼圧検査、眼底検査、視野検査等で診断されます。

健康診断や人間ドックなどでいずれかの検査に異常があった場合、必ず、眼科医の診察を受けるようにしましょう。

眼圧検査

直接、目の表面に測定器具をあてて測定する方法と
目の表面に空気をあてて測定する方法があります。
緑内障治療経過を確認するための重要な検査です。

眼底検査

視神経の状態を見るために、眼に光をあてて視神経乳頭部の変化をみます。視神経が障害されている場合、視神経乳頭部にある凹みの形が正常に比べて大きく変形します。緑内障発見のための必須検査です。

視野検査

視野の欠損（見えない範囲）の存在の有無や大きさから緑内障の進行具合を判定します。

【緑内障の治療】

緑内障は進行性の病気であり、一度狭くなった視野は元には戻りません。

しかし、眼圧を下げることにより進行のスピードを弱めることは可能です。

正常眼圧緑内障においても例外ではなく、もともと正常値に入っている眼圧をさらに下げることにより進行を遅らせることができます。

眼圧を下げるにはまず点眼(目薬)の治療からはじめ、効果が不十分な場合には、レーザー治療や手術治療が行なわれることがあります。

点眼

(多剤併用もあり)



効果が不十分な場合は・・・

レーザー 手術



緑内障の治療に大切なことは、早期発見とともに、定期的に眼科へ通院し点眼治療等をしっかりと続けることです。

そうすることにより大半の方は長い年月にわたって視野と視力を維持していくことができます。

参考文献：公益社団法人日本眼科医会 <https://www.gankaikai.or.jp/>
参天製薬株式会社 <https://www.santen.co.jp/ja/>



医療法人財団医親会 OBP クリニック

<https://www.obp-clinic.jp>

(代表) 06-6941-8687

(外来) 06-6941-8693

(健診) 06-6941-8686